

SURE: Shizuoka University REpository

<http://ir.lib.shizuoka.ac.jp/>

Title	成人の学習行動の分析に関する基礎的研究(II) : 土肥町における社会教育調査を中心として
Author(s)	角替, 弘志; 馬居, 政幸
Citation	静岡大学教育学部研究報告. 人文・社会科学篇. 37, p. 195-210
Issue Date	1987-03-23
URL	http://doi.org/10.14945/00002902
Version	publisher
Rights	

This document is downloaded at: 2015-07-11T13:02:59Z

成人の学習行動の分析に関する基礎的研究(Ⅱ)

——土肥町における社会教育調査を中心として——

A Study of the Analysis of Learning of Adults (Ⅱ)

——Based on the Survey of the Social Education in Toi——

角 替 弘 志・馬 居 政 幸

Hiroshi TSUNOGAE, Masayuki UMAI

(昭和61年10月11日受理)

1. はじめに

本研究は「成人の学習行動の分析に関する基礎的研究(Ⅰ)」⁽¹⁾ (以下「(Ⅰ)」と略す)において述べたように、地域における成人の教育機会を、生涯教育の観点から制度的に整理するための基礎的研究として、地域住民の学習に対する期待や意思(学習意思)を、主として学習行動の分析とその類型化によって明らかにしようとするものである。

そのために「(Ⅰ)」では、御殿場市における「生涯教育調査」(以下御殿場調査と略す)に基づくデータの多変量解析数量化Ⅲ類による分析から学習行動類型の折出を試み、8グループの類型を得た。この実証的に得られた学習行動類型を属性とのクロスや各個人における行動の比率などからより詳細に吟味した結果については、その後、日本生涯教育学会での発表⁽²⁾、および御殿場市教育委員会編著『御殿場市の生涯教育』に収録された「第2次生涯教育基礎調査報告書」において明らかにした。そこで本報告「(Ⅱ)」では、御殿場調査と同趣旨で実施した田方郡土肥町での「社会教育調査」(以下土肥調査と略す)の、同じく多変量解析数量化第Ⅲ類に基づく学習行動の類型化と、そこで折出された行動類型の特性について考察したい。なお、その前提として、次に土肥町での調査の概要を図示しておきたい。

2. 土肥調査の概要

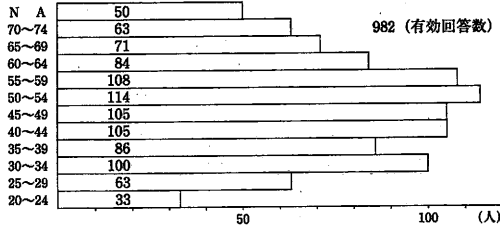
- (1) 調査対象 土肥, 小土肥, 八木沢, 小下田の四地区から等間隔無作為にて抽出した成人(20才以上, 75才未満) 1,133人
- (2) 調査方法 各地区の区長を通じ, 昭和58年9月1日~5日の間に各対象者へ調査票を配付。一週間後, 同じく区長により回収。
- (3) 回収率 86.7% (1,041票回収された中から不良票を除く有効回答数は982票)。
- (4) 調査対象者の特性

① 「性別」図2-1

男 409人 (41.6)	女 517人 (52.6)	NA 56 (5.8)
---------------	---------------	-------------------

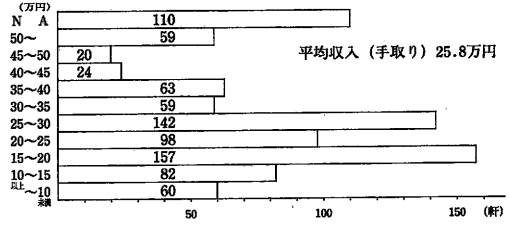
()内の数字はパーセント

② 「年令」 図2-2

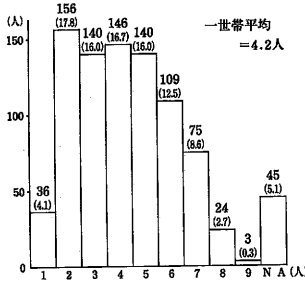


◎20才代、特に20才前半の人たちの町内在住が少ないので調査対象者も極端に少なくなっている。

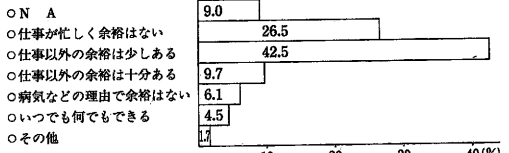
⑥ 「収入」 図2-6



③ 「家族数」 図2-3



⑦ 「余暇の状況」 図2-7



◎半数以上の人仕事以外の余裕をもっているが、約1/4の人は仕事が忙しく余裕はないと答えている。

④ 「職業」 図2-4

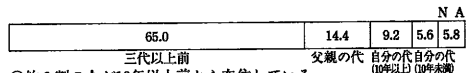
(2) 調査対象者の職業

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	N A
11.0	3.8	5.1	6.2	16.4	5.1	15.9	5.4	13.5	4.1	11.7	0.9	0.8	0.1

数字はパーセント

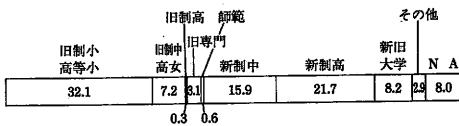
番号	7. 運輸、通信的職業
1. 専門的・技術的職業	8. 技能工、生産工程及び労務作業的職業
2. 管理的職業	9. 保安職業
3. 事務的職業	10. サービス職業
4. 販売的職業	11. パートタイム
5. 農林、漁業	12. 家事従事
6. 探掘作業的職業	13. その他

⑧ 「居住年数」 図2-8



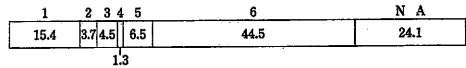
◎約9割の人が10年以上前から在住している。

⑤ 「学歴」 図2-5



⑨ 「観光業との関わり」 図2-9

調査対象者と観光業との関係



◎約3割の人が観光業に関係ある仕事に従事している。

番号
1. ホテル、旅館、民宿旅館、民宿を経営、又は勤務
2. 1にパートタイムで勤務
3. 観光客を対象とした商店を経営、又は勤務
4. 3にパートタイムで勤務
5. その他観光に関係ある仕事に従事
6. 観光とは関係ない仕事に従事

3. 学習行動類型の析出

(1) カテゴリー・ウエイト値と学習行動分布図

数値化第Ⅲ類による学習行動類型析出の方法については「(I)」にて明示したため略す。ここでは類型化の基礎となる、①「30種の学習行動」と、その参加の有無に付加された、②「3種のカテゴリー・ウエイト値」と、それぞれを軸とする三次元グラフに描いた、③「学習行動分布図」を表示する。

① 「30種の学習行動」表3-1

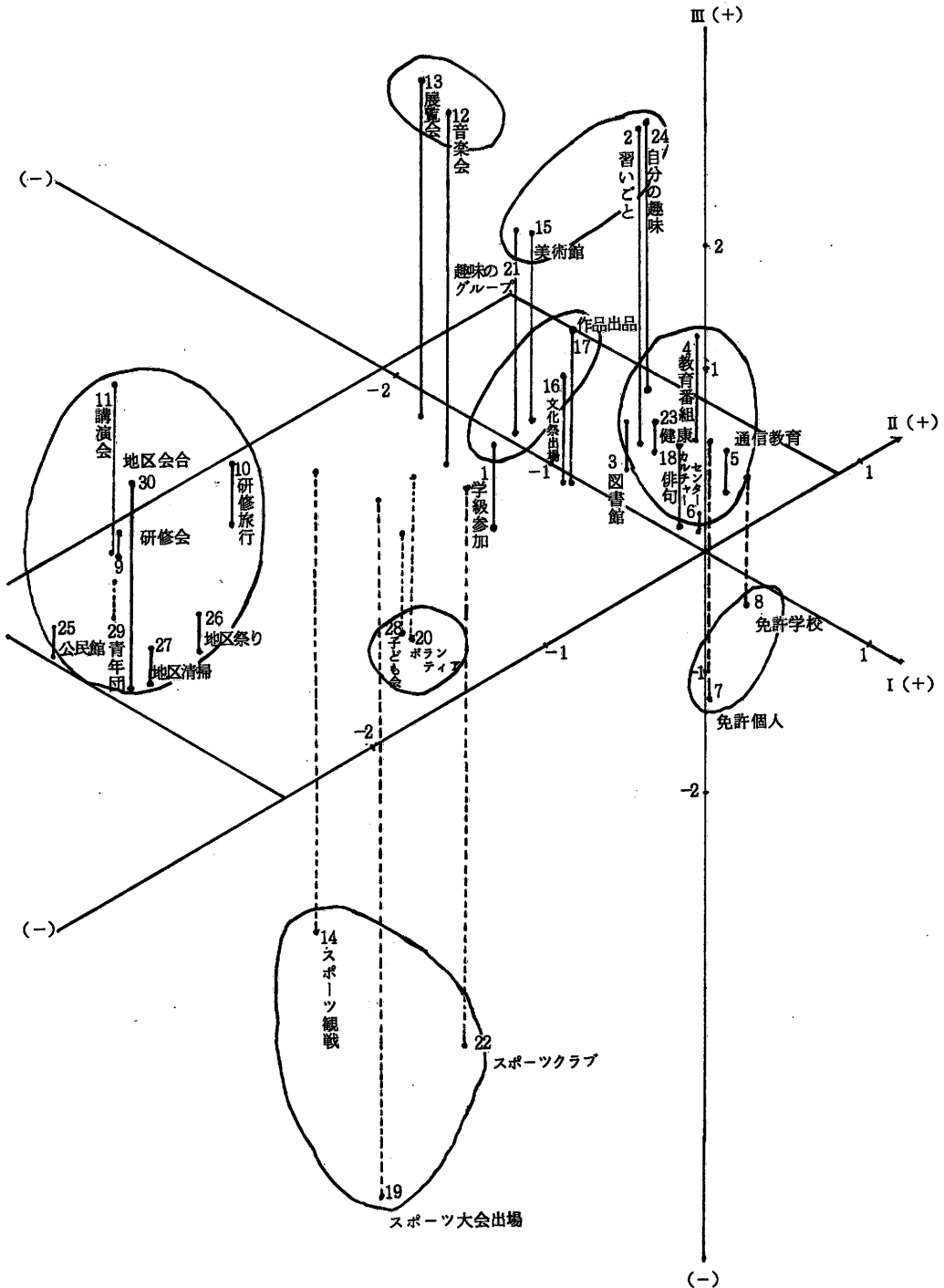
- | | | |
|--|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭教育学級、青年学級、父兄学級、婦人学級、高齢者学級などの学級に参加したか。 2. 先生について習いごと(華道、茶道、謡曲など)をしましたか。 3. 図書館に行きましたか。(どこの図書館でも、どんな目的でもかまいません) 4. テレビやラジオの教育番組などを利用して、つづけて何かを勉強しましたか。 5. 通信教育を利用して、つづけて何かを勉強しましたか。 6. 民間のカルチャー・センターで勉強しましたか。 7. 免許や資格(自動車、珠算、簿記、保母、など)を取るために個人で勉強しましたか。 8. 免許や資格(自動車、珠算、簿記、保母、など)を得るために学校に通いましたか。 9. 職場や自分の属している団体(農協、婦人会、青年団など)の研修会・講習会に参加しましたか。 10. 研修や視察のための旅行をしましたか。 11. 講演会に行きましたか。(どんな内容の講演でもかまいません) | <ol style="list-style-type: none"> 12. 音楽会や演劇(芝居)舞踊などの会(歌謡曲やロック、民謡などどんな内容のものでもかまいません)に行きましたか。 13. 展覧会に行きましたか。(どんな展覧会でもかまいません) 14. スポーツの試合の観戦にでかけましたか。(どんな競技でもかまいません) 15. 美術館や博物館に行きましたか。 16. 個人やグループ・団体で文化祭や音楽会や演劇会、放送などに出演(出演)しましたか。(どこで開かれたものでも、プラス、フォーク、民謡、落語など、なんでもかまいません) 17. 展覧会や文化祭などに自分の作品を出品しましたか。(どこで開かれたものでも、絵画、書道、写真、洋裁など、どんな分野の作品でもかまいません) 18. 俳句、短歌、短歌、随筆など自分で書いたものを同人誌、雑誌、新聞などに発表しましたか。 19. 個人やグループ・団体でスポーツの大会に出場しましたか。(どんな規模の大会でもかまいません。また、バレー、ソフト、ゲートボールなど、どんなスポーツでもかまいません) | <ol style="list-style-type: none"> 20. ボランティアとして福祉的な活動をしましたか。 21. 趣味(料理、囲碁、手芸など)のグループに入って、勉強しましたか。(職場のグループ、地域のグループなど、どんなグループでもかまいません) 22. 体育、スポーツのグループ、クラブ、サークルなどに入って運動をしましたか。(職場のグループ、地域のグループなど、どんなグループでもかまいません) 23. 健康のため、自分1人でなにか運動をつづけましたか。(たとえばジョギングなど) 24. 自分の趣味や関心のあることについて自分1人でつづけて勉強をしましたか。 25. 地区の公民館に行きましたか。(どんな目的でもかまいません) 26. 地区の祭りや体育祭・文化祭などに行きましたか。 27. 地区の清掃活動や防災活動に参加しましたか。 28. 子ども会活動や交通安全指導など地域の青少年のための活動に参加しましたか。 29. 青年団、婦人会、老人会などの地域の団体の会合に出ましたか。 30. 地区や隣組の会合に出ましたか。 |
|--|--|--|

※ 調査は、この30種の学習行動の1年間における参加の有無を問うもの。

② 「カテゴリー・ウエイト値」表3-2

カテゴリー	第 I 軸	第 II 軸	第 III 軸
1-a	-0.0790505	-0.0522399	0.0458424
2-a	-0.0784150	0.0390905	0.1678368
3-a	-0.0713525	0.0213854	0.0233913
4-a	-0.0624476	0.0569954	0.0568263
5-a	-0.0261811	0.0388511	0.0215449
6-a	-0.0137459	0.0095917	0.0069394
7-a	-0.0580916	0.0589705	-0.1367791
8-a	-0.0251164	0.0502100	-0.0658171
9-a	-0.1805453	-0.1809439	0.0085402
10-a	-0.1595991	-0.1300230	0.0355759
11-a	-0.1838797	-0.1809309	0.0900212
12-a	-0.1274088	-0.0324712	0.1880125
13-a	-0.1606687	-0.0142018	0.1798999
14-a	-0.1633062	-0.0766960	-0.2463574
15-a	-0.1218052	0.0136321	0.1050756
16-a	-0.0832782	-0.0049430	0.0573432
17-a	-0.0816199	-0.0031883	0.0839162
18-a	-0.0208736	0.0056357	0.0475018
19-a	-0.1299869	-0.0698980	-0.3735852
20-a	-0.1027628	-0.0483244	-0.0857024
21-a	-0.1231869	0.0062623	0.1086775
22-a	-0.1102837	-0.0391330	-0.2995874
23-a	-0.0705111	0.0375418	0.0153446
24-a	-0.1083679	0.0690239	0.1433763
25-a	-0.1499814	-0.2562671	0.0152213
26-a	-0.1034504	-0.2081868	0.0206053
27-a	-0.1007829	-0.2414130	0.0168882
28-a	-0.1023707	-0.0837933	-0.050525
29-a	-0.1674617	-0.1972170	-0.0186435
30-a	-0.1039659	-0.2487728	0.1089798

③ 「カテゴリー・ウエイト値による学習行動分布図 (10⁻¹⁰)」 図3-1



(2) 学習行動の類型

学習行動の類型は、先ず、表3-2「カテゴリー・ウエイト値」により与えられた記号の組み合わせにより、四種の類型として据えられる(表3-3の大類型 A, B, C, D)。さらに、図3-1「カテゴリー・ウエイト値による学習行動分布図」に示された相互の位置関係とそれぞれの学習行動の性格から、次の八種の学習行動の類型化が可能となろう(表3-3の0類型)。

- ① 第一空間(A)では、地域活動型、参加創造型、文化鑑賞型の三種。
- ② 第二空間(B)では、スポーツ型、奉仕学習型の二種
- ③ 第一空間(C)では、教養学習型、趣味学習型の二種
- ④ 第二空間(D)では、資格学習型の一種

表3-3 「学習行動の類型」

類 型		項 目	
大	記号	小	
A	-	地域活動型	9-a 職場研修 10-a 研修視察 11-a 講演会 25-a 公民館 26-a 体育祭・文化祭 27-a 清掃・防災活動 30-a 地区会合 男 281 女 327
		参加創造型	1-a 学級参加 16-a 文化祭出場 17-a 作品提出 男 18 女 75
		文化鑑賞型	12-a 音楽会等鑑賞 13-a 展覧会 男 163 女 265
B	-	スポーツ型	14-a スポーツ観戦 19-a スポーツ大会出場 22-a 体育グループ 男 150 女 98
		奉仕学習型	20-a ボランティア 28-a 子ども会 男 155 女 180
		※	29-a 地域団体会合
C	+	教養学習型	3-a 図書館 4-a 教育番組 5-a 通信教育 6-a カルチャーセンター 18-a 俳句等発表 23-a 健康のための運動 男 18 女 27
		趣味学習型	2-a 習いごと 15-a 美術館・博物館 21-a 趣味のグループ 24-a 趣味・関心 男 102 女 164
D	+	資格学習型	7-a 免許個人 8-a 免許学校 男 133 女 80

※ 29-a 地域団体会合は、記号は異なるが距離が近いので地域活動型に入れる。

4. 学習行動類型の特性

学習行動の各類型の特色を考察するにあたり、まず、各類型の特性を全体として捉えるために、各類型を構成する学習行動が偶数の場合はその半数以上、奇数の場合は半数+1以上の行動については「はい」と答えた者の本調査有効回答者全体（982人）に対する割合を析出し、仮にそれを類型参加率として、その特性を見てみたい。次いで、より詳細に見るために、各類型を構成する個々の学習行動を行ったと回答した人達の特性に目を向けたい。

(1) 各類型の参加者と参加率の特性

図4-1に見られるように、最も参加率の高いのは地域活動型である。調査の有効回答者数全体（982人）の内の64.9%にあたる637人がこの類型を構成する8種類の学習行動のいずれか4種類以上を行っているわけである。その男女比をみると（図4-1の左半分のグラフ）、637人の中で281人（44.1%）が男性であり、327人（51.3%）が女性であることがわかる。しかし、調査対象者全体の男女の中でのこの類型に属する男女の構成比をみると（図4-1の右半分のグラフ）、男性の場合が全体409人の中での281人で68.7%、女性の場合が全体517人の中での327人で63.2%である。この学習類型は参加人数では女性が多いものの、その母集団における男女比を考慮するとき、一概に女性の参加率の方が高いとは言い切れず、男女ともに参加の度合いは高いと言うべきか。さらに各類型と年齢をクロスした図（図4-2）をみると、地域活動型の参加率は、全体として若年層に低く中・高年齢層が高くなっているが、40代前半をピークに中年層が特に高いことがわかる。

図4-1 「学習行動類型参加者数・参加率×男女」

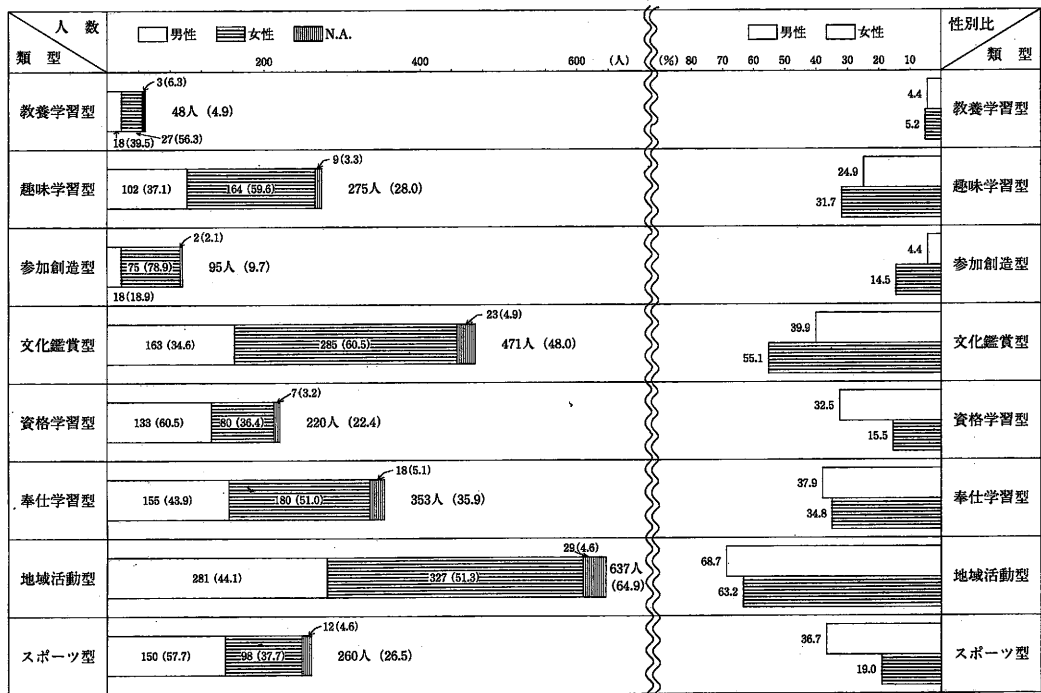
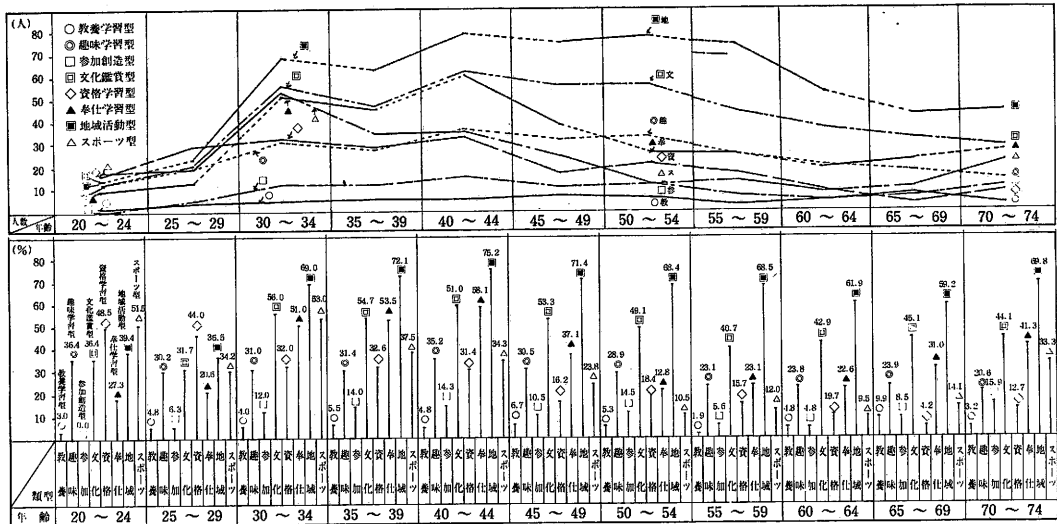


図4-2 「学習行動類型参加者数・参加率×年令」



地域学習型に次いで参加率が高いのが471人(48.0%)の文化鑑賞型。三番目が奉仕学習型で353人(35.9%)、以下、ほぼ同率で趣味学習型とスポーツ型の順に、275人(28.0%)、260人(26.5%)と続き、六番目がやや減って資格学習型で220人(22.4%)。しかし、七番目はかなり少なく95人(9.7%)の参加創造型。そして最後の八番目の教養学習型はさらに少なく、わずか48人(4.9%)である。(図4-1左半分)

男女比の特色をみると、奉仕学習型、資格学習型、スポーツ型は男性の参加率が高い。とりわけ、奉仕学習型が地域活動型と同様に類型内の構成比は女性が高いのに比較して、資格学習型とスポーツ型は類型内構成比でも全体の性別構成比でもいずれも男性の比率が高いのが特徴的である。それに対し、文化鑑賞型、趣味学習型、参加創造型、教養学習型の四類型は、類型内構成比、全体性別構成比ともに女性の比率が高い。(図4-1右半分)

年令との比較ではどうか。まず男性に多い三類型を見るに、資格学習型とスポーツ型はともに20~40才代にかけて多い。なかでも資格学習型は20代の参加率が高く、前半の20~24才代が48.5%、後半の25~29才代が46.0%といずれも同年代の半数近くが参加している。それに対しスポーツ型のピークは30才代前半である。他方、奉仕学習型は地域活動型と同様に20才代の参加率が低く30才代から高くなり40才前半が58.1%とピークになるが、その後は地域活動型と異なり40才代後半が37.1%と急激に減少、50才代~60才前半にかけては20才代前半に終始し全体平均よりも10%以上低い参加率である。同じく男性の参加率の高い三つの行動類型もその特性はかなり異なるようだ。(図4-2)

女性の参加率の高い四類型の特性はどうか。まず全体として地域学習型に次いで参加率の高い文化鑑賞型は、60才代以上がやや異なるもののほぼ地域学習型と同様のパターンを示し、20才代が低く30~40才代に高くなる。特に40才代前半は56.6%と最も高い参加率を示す。他方、趣味学習型は20才代前半と40才代前半がやや高いものの、20~40才代にかけて特に大きな変化はなくほぼ三人に一人は参加、50才代以上は徐々に減少するというパターンである。次に参加創造型の特性を見るに、参加創造型は20才代前半の0%を最低として30才代後半~40才代前半

を頂点とする山形になっている。ただ、60才代後半から再び参加率が高まり70才代前半が15.9%と最も高い参加率を示しているのが特異であるが、いずれにせよ人数が少ないため明確な判断はできない。最後に教養学習型はこの類型に参加する人の数が極めて少なくその傾向を読み取ることは、この時点ではできないと言わざるをえない。(図4-2)

以上、各類型単位の参加率とその参加者の性別、年齢別クロス集計から各行動類型の特色を捉えてきた。そこで、次に、これまでに明らかになった特性の背景や理由等についてさらに考察を進めるため、各類型を構成する個々の学習行動の内容や参加者の特性をみていきたい。なお考察は女性の参加率の高い4類型から始めたい。

(2) 教養学習型

図4-3 「教養学習型の各学習行動とその参加率」(類型参加率 4.9%)

	はい	いいえ	NA	行動者数
図書館に行きましたか。	11.8	82.1	6.1	(116人)
俳句、短歌、随想など自分で書いたものを同人誌、新聞などに発表しましたか。	4.1	89.5	6.4	(40人)
民間のカルチャーセンターで勉強しましたか。	1.5	90.2	8.3	(15人)
通信教育を利用して、つづけて何かを勉強しましたか。	6.1	87.6	6.0	(63人)
テレビやラジオの教育番組などを利用して、つづけて何かを勉強しましたか。	14.7	79.6	5.7	(144人)
健康のため自分1人でなにか運動をつづけましたか。	24.0	70.7	5.3	(236人)

教養学習型は図4-3に示した学習行動からなるが、類型単位の参加率でも明らかであったように、この類型に属する学習行動を行ったとする人は非常に少ない。土肥町という地域性から「カルチャー・センター」(1.5%)は、町内にその施設がないことからやむを得ないが、「俳句・発表」(4.1%)や「通信教育」(6.4%)は特に少ないといえよう。「図書館」についても目的や回数を規定していないことから11.7%というのはかなり低い参加率である。「教育番組」が14.7%と他に比較してやや高く、「健康・一人運動」が24%とこの中でかなり高いのが特徴的である。しかし、年齢別(表4-1)に見ると「教育番組」「健康・一人運動」ともに高齢者の参加率が高いことから、かなりゆるやかな学習といえよう。むしろスポーツ型に属すると思われる「健康・一人運動」が教養学習型に含まれること自体が特色というべきか。

いずれにせよ、この類型を構成する学習行動はいずれも方法・内容・場所等がかなり明確なものである。その意味で最も狭義の学習行動といえよう。その参加率が極めて低いということの意味については今後検討を要する課題である。

表4-1 「教育番組」「健康・一人運動」×年齢

教育番組T	144 (14.7)	()	3 (9.1)	6 (9.5)	12 (12.0)	9 (10.5)	16 (15.2)	18 (17.1)	18 (15.8)	16 (14.8)	14 (16.7)	15 (21.1)	13 (20.6)
M	66 (16.1)	()	2 (11.1)	2 (8.0)	7 (14.9)	6 (13.0)	10 (21.3)	8 (21.1)	7 (15.2)	7 (13.7)	7 (20.0)	5 (19.2)	4 (16.0)
F	72 (13.9)	()	1 (1.7)	4 (10.5)	5 (9.4)	3 (7.5)	6 (10.3)	9 (13.6)	10 (15.4)	9 (16.1)	7 (14.9)	10 (22.7)	8 (25.0)
健康個人運動T	236 (24.0)	()	6 (18.2)	9 (14.3)	24 (24.0)	16 (18.6)	27 (25.7)	32 (30.5)	27 (23.7)	19 (17.6)	20 (23.8)	21 (29.6)	24 (38.1)
M	107 (26.2)	()	4 (22.2)	4 (16.0)	14 (29.8)	9 (19.6)	14 (29.8)	7 (18.4)	15 (32.6)	9 (17.6)	13 (37.1)	8 (30.8)	9 (36.0)
F	115 (22.2)	()	2 (13.3)	5 (13.2)	10 (18.9)	7 (17.5)	13 (22.4)	24 (36.4)	10 (15.4)	10 (17.9)	7 (14.9)	12 (27.3)	14 (43.8)

{ ●()内は各年齢別・性別の総計に対する比率 }
{ ●T=行動総数 M=男 F=女 }

(3) 趣味学習型

図4-4 「趣味学習型の各学習行動とその参加率」(類型参加率28.0%)

	はい	いいえ	NA	行動者数
先生について習いごとをされましたか。	16.8	78.4	4.8	(165人)
美術館や博物館に行きましたか。	25.5	68.9	5.6	(250人)
趣味のグループに入って勉強しましたか。	20.2	74.5	5.3	(198人)
自分の趣味や関心のあることについて、自分1人でつづけて勉強しましたか。	33.8	59.3	6.9	(332人)

この類型の全体としての特性は参加率28.0%と約四人に一人が四つの学習行動の何れか二つ以上に参加し、女性の20~40才代にかけて多いということであった。個々の学習行動ではどうか。まず各学習行動の性別構成比(図4-5)を見るに、確かに「先生・習い事」では男性の13.3%に対し女性は83.6%と圧倒的に女性が多く「趣味・グループ」でも明らかに女性の比率が高い。しかし、「美術館・博物館」へ行った人は、女性がやや多いもののその差は少なく、「趣味・関心・一人」ではほぼ男女同数である。全体として女性が多いことから、この二つの行動に関しては男性の参加率が特に低いわけではないようだ。

さらに年令・男女別構成比(表4-2)を見ると上記の傾向はより顕著である。

例えば「先生・習い事」を行った男性はわずか5.4%。他方女性は26.7%。加えてその年令をみると20~50才代にかけ平均して高い。また「趣味・グループ」では30~40才代の女性の参加率が平均して高いが、「趣味・関心・一人」では30~40才代の男性の参加率が高い。女性はグループ、男性は一人で学習する傾向が強いのであろうか。

図4-5 「趣味学習型×男女」

	男	女	総数
先生・習い事	13.3	83.6	3.1 (165)
美術館・博物館	44.8	51.6	3.6 (250)
趣味・グループ	35.3	61.1	3.6 (198)
趣味・関心・個人	47.3	47.6	5.1 (332)

この類型を構成する学習行動は、教養学習型に比較してより一般的な学習として捉えられるものである。それゆえ全体として四人に一人以上の参加率を示すのであろう。しかしその中でより内容・場所・方法が限定された「先生・習い事」「趣味・グループ」が他の二つに比較して参加率が低くともに女性中心であることは、逆にそれほど内容を限定せず「自分一人で勉強」との質問に「はい」と答える比率がこの類型の中では最も高く、かつ男性の参加率が高いことは、今後の地域住民の学習のありかたを考える上で考慮すべき問題であろう。

表4-2 「趣味学習型×年令・男女」

質問	年令	年齢										
		20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74
先生・習い事T	165 (16.8)	7 (21.2)	12 (19.0)	15 (15.0)	13 (15.1)	23 (21.9)	21 (20.0)	24 (21.1)	16 (14.8)	12 (14.3)	14 (19.7)	3 (4.8)
	M	22 (5.4)	1 (5.0)	0 (0.0)	1 (2.1)	0 (0.0)	5 (10.6)	4 (10.5)	1 (2.2)	3 (5.9)	2 (5.7)	3 (11.5)
美術館T	138 (26.7)	6 (46.0)	12 (31.6)	14 (26.4)	13 (32.5)	18 (31.0)	17 (25.8)	22 (33.8)	13 (23.2)	10 (21.3)	11 (25.0)	2 (6.3)
	F	138 (26.7)	6 (46.0)	12 (31.6)	14 (26.4)	13 (32.5)	18 (31.0)	17 (25.8)	22 (33.8)	13 (23.2)	10 (21.3)	11 (25.0)
博物館T	250 (25.5)	10 (30.3)	21 (33.3)	29 (29.0)	25 (29.1)	34 (29.1)	25 (23.6)	28 (24.6)	28 (25.3)	18 (21.4)	13 (18.3)	10 (15.9)
	M	112 (27.4)	5 (27.8)	6 (24.0)	17 (36.2)	13 (28.3)	20 (44.6)	9 (23.7)	8 (21.4)	14 (27.5)	9 (25.7)	6 (23.1)
F	129 (25.0)	5 (33.3)	15 (39.5)	12 (22.4)	12 (20.0)	14 (24.1)	15 (22.7)	19 (29.2)	14 (25.0)	9 (19.1)	7 (15.0)	6 (18.5)
	趣味・グループT	198 (20.2)	6 (18.2)	8 (12.7)	22 (22.0)	19 (22.1)	26 (24.7)	29 (27.5)	25 (18.7)	18 (15.5)	13 (22.5)	16 (22.5)
M	70 (17.1)	3 (16.7)	3 (12.0)	9 (19.1)	7 (15.2)	14 (28.8)	10 (26.3)	5 (10.9)	8 (15.7)	3 (9.6)	5 (19.2)	3 (12.0)
	F	121 (24.0)	3 (20.0)	5 (13.2)	13 (24.5)	12 (30.0)	12 (20.7)	18 (27.3)	19 (17.9)	10 (21.9)	11 (25.0)	7 (21.9)
趣味・関心T	332 (33.8)	16 (48.5)	24 (38.1)	37 (37.0)	30 (34.9)	43 (41.3)	35 (33.3)	32 (28.1)	28 (25.9)	26 (31.0)	25 (35.2)	22 (34.9)
	M	157 (38.4)	10 (55.0)	9 (36.0)	22 (46.8)	19 (41.3)	23 (46.9)	13 (34.2)	13 (28.3)	15 (39.4)	13 (39.1)	11 (42.9)
F	158 (30.6)	6 (40.0)	15 (39.5)	15 (28.3)	11 (27.5)	15 (34.5)	21 (31.8)	17 (26.2)	13 (23.2)	13 (27.7)	14 (31.8)	13 (40.6)

<< ()内は各年齢別・性別の総計に対する比率 T=行動の総数 M=男 F=女 >>

(4) 参加創造型

図 4-6 「参加創造型の各学習行動とその参加率」(類型参加率9.7%)

	はい	いいえ	NA	行動者数
家庭教育学級、婦人学級、高齢者学級などの学級に参加しましたか。	16.6	78.5	4.9	(163人)
個人やグループ・団体で文化祭や音楽会や演劇会、放送などに出了ましたか。	12.5	82.0	5.5	(123人)
展覧会や文化祭などに自分の作品を出品しましたか。	12.3	82.2	5.5	(121人)

参加率が9.7%と教養学習型に次いで少なくしかも女性の中年層が中心というのがこの類型の全体としての特色であるが、個々の学習行動の参加率は「学級参加」が16.6%、「文化祭出場」が12.5%、「作品出品」が13.3%といずれもやや多い。(図4-6) これは類型を構成する学習行動が奇数の場合は半数+1の行動の参加者とする類型単位の参加率析出方法故のバイアスであろう。今後工夫を要する問題である。しかし、当然のことながらいずれの学習行動も参加率が低いことには変わらない。

年齢・男女差ではどうか。(表4-4) いずれも女性中心であることは明らかである。総数が少ないため即断はできないが、30~50才代前半にかけての女性の参加率が高く、特に「学級参加」はその傾向が顕著である。逆に男性は実数、性別比いずれも女性より低く、女性を上回っているのは「文化祭出場」の40才代前半のみでそれも僅か一名である。

この類型を構成する学習行動は各種学級、文化祭、展覧会等、いずれも地域や町で広く町民を対象として主催される傾向の強い学習活動である。その意味で、生涯学習化にむけての地域の教育機会の制度的整備を図る上で問題点を示唆していると言えよう。

(5) 文化鑑賞型

図 4-8 「文化鑑賞型の各学習行動とその参加率」(類型参加率48.0%)

	はい	いいえ	NA	行動者数
音楽会や演劇、舞踊などの会に行きましたか。	32.4	62.0	5.6	(318人)
展覧会に行きましたか	35.0	60.1	4.9	(344人)

この類型を構成する二つの学習行動は「音楽会等鑑賞」が32.4%、「展覧会」が35.0%。

図 4-7 「参加創造型×男女」

	男	女	総数
学 級 参 加	14.1	80.4	5.5 (163)
文 化 祭 出 場	26.0	69.1	4.9 (123)
作 品 出 品	31.4	64.5	4.1 (121)

表 4-4 「参加創造型×年齢・男女」

質問	年齢	年齢													
		20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70			
音楽会等鑑賞 T	318 (32.4)	10 (33.3)	12 (38.0)	39 (38.0)	35 (40.7)	38 (36.2)	38 (31.1)	33 (33.3)	32 (39.6)	23 (37.4)	19 (26.3)	18 (26.6)			
M	90 (32.0)	3 (3.3)	2 (2.0)	14 (29.8)	14 (30.4)	8 (23.5)	9 (21.1)	10 (19.6)	6 (19.5)	7 (17.1)	4 (25.3)	4 (16.0)			
F	211 (40.8)	7 (3.3)	10 (23.3)	25 (47.2)	21 (62.5)	26 (41.8)	29 (43.9)	28 (43.1)	22 (39.3)	16 (34.9)	12 (27.3)	14 (43.9)			
展覧会 T	344 (35.0)	7 (2.0)	15 (23.3)	42 (43.0)	29 (33.7)	46 (43.8)	48 (45.7)	37 (32.5)	34 (31.5)	26 (31.0)	24 (33.3)	22 (34.9)			
M	125 (30.8)	3 (2.4)	5 (4.0)	18 (38.3)	13 (28.3)	20 (42.0)	15 (38.5)	11 (23.9)	15 (39.4)	9 (22.7)	7 (26.7)	8 (32.0)			
F	205 (39.7)	4 (2.0)	10 (25.3)	24 (45.9)	16 (40.0)	26 (44.8)	32 (48.5)	25 (38.5)	19 (33.8)	17 (36.2)	17 (43.0)	14 (43.0)			

(図4-8) また類型参加率は、最も高い地域活動型に次いで多く48.0%。参加創造型と類似した学習場面ではあるが「行きましたか」という学習形態の差が、参加の度合いを高めたのであろう。また、趣味学習型や参加創造型と同様に、女性の参加率が高いことが各学習行動の性別参加率でも確認できる。(図4-9) 年齢差では特に30~40才代にかけての女性の参加率が高い。逆に男性では40才代の「展覧会」がやや高いのみである。なお女性の場合も20才代が一般的に低いことが指摘できよう。(表4-4)

趣味学習型、参加創造型、文化鑑賞型、そして参加者自体が少数ではあるが教養学習型を含め、女性のそれも中年の参加率が高く男性や若年層との参加率の間にかなりの差があること、また文化鑑賞型を除きいずれも参加率が低いことが、各類型単位の性別参加率で明らかであったものの、個別学習行動単位においてもより一層確認できる。

他方、この四つの類型を構成する学習行動の内容の大部分が、従来、一般に成人の行う学習として捉えられてきたこと、その意味で地域における社会教育活動の中心部分を占めてきたものである。また、地域の生涯学習化が性差、世代差を問わず進めるべき課題であり、それに対する住民の意識もまた高いと言われることが多い。しかし、以上の学習行動類型の特性を見る限りこのような前提を自明のものとして置くことには疑問を呈せざるをえない。

この点に配慮しつつ次に、男性、あるいは青年層の参加率の高い資格学習型、スポーツ型、奉仕学習型、また全体として参加率の高い地域活動型の特性をみて行きたい。

(6) 資格学習型

図4-10 「文化鑑賞型の各学習行動とその参加率」(類型参加率 22.4%)

	はい	いいえ	NA	行動者数
免許や資格を取るために個人で勉強しましたか。	19.5	74.2	6.3	(191人)
免許や資格を得るために学校に通いましたか。	14.5	83.1	6.4	(103人)

この類型は図4-10の質問文で明らかのように免許や資格をとるための学習行動からなる。参加率は類型別22.4%、各行動別では「免許・個人」が19.5%、「資格・学校」が10.5%。およそ五人に一人がなんらかの資格・免許をとるために学習していることになる。この数値自

図4-9 「文化鑑賞型×男女」

	男	女	総数
音楽会等鑑賞	28.3	66.4	5.3 (318)
展覧会	36.3	59.6	4.1 (344)

表4-3 「文化鑑賞型×年齢・男女」

年齢	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70
質問	163 (16.0)	0 (0.0)	8 (2.7)	26 (8.1)	21 (6.5)	19 (5.9)	17 (5.2)	15 (4.6)	10 (3.1)	16 (4.9)	17 (5.1)
学級参加 T	23 (5.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.1)	2 (4.3)	1 (2.1)	0 (0.0)	3 (6.5)	4 (7.8)	5 (9.3)	5 (9.0)
M	131 (26.3)	0 (0.0)	8 (2.1)	25 (6.7)	19 (5.1)	18 (5.1)	17 (5.1)	12 (3.5)	6 (1.7)	4 (1.1)	10 (3.1)
F	123 (24.6)	6 (1.2)	4 (1.0)	16 (4.3)	13 (3.5)	13 (3.5)	19 (5.6)	12 (3.5)	12 (3.5)	8 (2.5)	6 (1.8)
文化祭出場 T	32 (7.8)	2 (1.1)	1 (0.4)	6 (1.6)	4 (1.1)	7 (2.1)	1 (0.3)	5 (1.5)	3 (0.9)	1 (0.3)	1 (0.3)
M	85 (16.4)	4 (1.0)	3 (0.8)	10 (2.7)	9 (2.5)	6 (1.7)	12 (3.5)	13 (3.5)	9 (2.5)	7 (2.0)	6 (1.8)
F	121 (24.2)	1 (0.3)	2 (0.5)	7 (1.9)	14 (3.9)	18 (5.1)	13 (3.7)	15 (4.5)	16 (4.8)	4 (1.1)	8 (2.3)
作品出品 T	38 (9.3)	1 (0.3)	2 (0.5)	4 (1.1)	3 (0.8)	7 (2.1)	4 (1.2)	2 (0.6)	6 (1.8)	1 (0.3)	4 (1.2)
M	78 (15.6)	0 (0.0)	5 (1.3)	8 (2.1)	11 (3.0)	11 (3.0)	8 (2.4)	13 (3.7)	10 (2.9)	3 (0.9)	4 (1.2)
F	123 (24.6)	1 (0.3)	2 (0.5)	7 (1.9)	14 (3.9)	18 (5.1)	13 (3.7)	15 (4.5)	16 (4.8)	4 (1.1)	8 (2.3)

<()内は各年齢・各性別の総計に対する比率 T=行動総数 M=男 F=女>

図4-11 「資格学習型×男女」

	男	女	総数
免許・個人	62.3	34.6	3.1 (191)
免許・学校	56.3	39.8	3.9 (103)

体は高いものではないが、性別、年齢別にみるとその特性が明確になる。(表4-5)

いずれも20~40才代前半にかけての男性の参加率がかかなり高く、特に20才代はほぼ二人に一人である。20才代の資格・免許の学習は自動車の普通運転免許証の取得が多いと思われるが、中年男性の参加率が高いのは資格・免許という職業に直接結びつく学習故であろう。男性、それもいわゆる働き盛りの層にとっての学習のありかたを示唆するものである。

表4-5 「資格学習型×年齢・男女」

質問	年齢	年齢													
		20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74			
免許・個人 T	M	191 (19.3)	12 (35.4)	23 (36.3)	29 (39.0)	25 (28.1)	28 (28.7)	15 (14.3)	18 (15.8)	15 (13.9)	9 (10.7)	3 (4.2)	8 (12.7)		
	F	66 (4.8)	2 (13.3)	11 (28.0)	10 (18.9)	12 (20.7)	6 (8.1)	4 (6.2)	4 (7.1)	3 (4.5)	2 (2.8)	2 (2.8)	6 (9.0)		
免許・学校 T	M	103 (10.3)	12 (38.4)	15 (23.3)	10 (19.0)	18 (28.3)	12 (11.4)	7 (6.1)	8 (7.4)	1 (1.2)	1 (1.4)	1 (1.4)	4 (6.3)		
	F	58 (14.2)	9 (50.0)	8 (32.0)	5 (19.0)	5 (19.0)	5 (21.1)	8 (10.9)	5 (11.8)	1 (2.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (8.0)		
F	M	41 (7.2)	3 (20.0)	7 (18.0)	5 (12.5)	7 (12.1)	3 (4.5)	2 (2.1)	2 (2.8)	2 (3.0)	0 (0.0)	1 (1.2)	2 (2.8)		
	F	41 (7.2)	3 (20.0)	7 (18.0)	5 (12.5)	7 (12.1)	3 (4.5)	2 (2.1)	2 (2.8)	2 (3.0)	0 (0.0)	1 (1.2)	2 (2.8)		

(7) スポーツ型

図4-12 「スポーツ型の各学習行動とその参加率」(類型参加率 26.5%)

	はい	いいえ	NA	行動者数
スポーツの試合の観戦にでかけましたか	40.5	54.8	4.9	(398人)
個人やグループ・団体でスポーツ大会に出場しましたか。	29.7	64.9	5.4	(292人)
体育・スポーツのグループ、クラブ、サークルなどに入って運動しましたか。	21.6	72.3	6.1	(212人)

この類型の参加率は26.0%、それに対応し個別学習行動でも「スポーツ・出場」が29.7%、「体育・グループ」が21.6%。しかし、「スポーツ・観戦」は40.5%とかなり高い参加率である。(図4-12) 見ることと実際に行うことの差は大きいようである。性差、年齢差にもそのことが反映しているようだ。

まず、各行動における男女比では、「スポーツ・観戦」は男女ほぼ同数だが、「スポーツ・出場」、「体育・グループ」いずれも男性の参加率が高い。(図4-13)

また年齢別にみると「スポーツ・観戦」は30才代前半の74.5%を頂点に30~40才代が特に高く、女性の場合も同年代の参加率が高い。それに対し、「スポーツ・出場」、「体育・グループ」は男女とも20~30才代の参加率が高く、特に男性の20才代前半と30才代前半は、「スポーツ・出場」が70%を、「体育・グループ」が60%を越える。(表4-6)

資格学習型とともにスポーツ型は、男性の、それも青年層の学習行動を制度的に保証する際の重要な視点を提示していると言えよう。

図4-13 スポーツ型×男女

	男	女	総数
スポーツ観戦	49.5	44.5	6.0 (398)
スポーツ・出場	57.2	38.2	4.4 (292)
体育・グループ	60.4	35.4	4.2 (212)

図4-6 スポーツ型×年齢・男女

質問	年齢	年齢													
		20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74			
スポーツ観戦 T	M	398 (49.5)	13 (39.0)	21 (33.3)	61 (61.0)	46 (53.5)	51 (48.0)	43 (41.0)	34 (29.3)	37 (34.3)	21 (25.0)	24 (28.8)	26 (41.3)		
	F	197 (48.2)	8 (44.4)	8 (32.0)	35 (74.5)	26 (55.9)	29 (61.7)	15 (39.5)	17 (37.0)	24 (47.1)	13 (37.1)	9 (24.6)	12 (37.5)		
スポーツ出場 T	M	177 (31.2)	5 (33.3)	13 (34.2)	26 (46.1)	20 (37.9)	22 (40.9)	27 (40.9)	15 (23.1)	13 (22.2)	17 (17.0)	8 (21.1)	12 (37.5)		
	F	292 (29.7)	18 (54.5)	22 (34.0)	55 (35.0)	38 (41.2)	41 (39.0)	28 (36.7)	16 (14.0)	14 (13.0)	13 (15.5)	15 (21.1)	21 (33.3)		
体育グループ T	M	167 (46.8)	13 (72.0)	15 (36.0)	37 (78.7)	24 (34.0)	24 (31.1)	15 (29.3)	11 (23.9)	11 (21.0)	4 (11.4)	3 (9.0)	9 (36.0)		
	F	112 (21.7)	5 (33.3)	7 (30.2)	18 (46.0)	14 (34.0)	17 (39.3)	13 (29.3)	4 (8.2)	3 (5.4)	8 (17.0)	12 (27.2)	11 (34.4)		
体育グループ T	M	212 (51.5)	18 (54.5)	19 (30.2)	46 (88.4)	33 (68.0)	25 (52.8)	17 (40.9)	10 (21.9)	10 (19.3)	7 (18.3)	4 (10.8)	13 (20.6)		
	F	128 (31.3)	11 (61.1)	12 (38.0)	31 (62.2)	24 (51.2)	17 (36.2)	9 (20.7)	4 (8.7)	8 (15.7)	3 (7.6)	2 (5.4)	6 (9.0)		
F	M	75 (14.9)	7 (46.7)	7 (18.0)	15 (32.5)	9 (13.8)	8 (12.1)	6 (12.1)	2 (4.5)	2 (4.5)	4 (8.5)	2 (4.5)	7 (11.0)		
	F	75 (14.9)	7 (46.7)	7 (18.0)	15 (32.5)	9 (13.8)	8 (12.1)	6 (12.1)	2 (4.5)	2 (4.5)	4 (8.5)	2 (4.5)	7 (11.0)		

(8) 奉仕学習型

図4-14 「奉仕学習型の各学習行動とその参加率」(類型参加率 35.9%)

	はい	いいえ	NA	行動者数
ボランティアとして福祉的な活動をしましたか。	20.6	73.8	5.6	(202人)
子ども会活動や交通安全指導など地域の青少年のために活動に参加しましたか。	22.9	70.4	6.7	(225人)

この類型の全体としての特性は、参加者の実数は女性が多いものの、性別参加率では男性の方がやや高く、特に40才代前半の男性の参加率が高いということであった。しかし、個別学習行動をみるとやや変化があるようだ。

男女比では「地域・子ども会」は行動別男女比は女性が高く性別構成比ではほぼ同率であるが、「ボランティア」は行動別男女比、性別構成比ともに明らかに男性が高い。(図4-15, 表4-7) 参加総数が多く女性の参加者も多い「地域・子ども会」の傾向が類型全体に反映したようだ。

年齢別にみると、男性は「ボランティア」、「地域・子ども会」共に40才代の参加率が最も高いが、女性の場合「ボランティア」は65才代以上の高齢者の参加率がかなり高く、「地域・子ども会」は男性よりもやや若く30才代後半にピークがある。「ボランティア」の内容の捉え方に性差、年齢差があるようだ。しかしいずれにせよ、本調査対象者における男性のこの類型の参加率の高さは、男性の学習行動を引き出す要因を考察する上で示唆的である。

図4-15 「奉仕学習型×男女」

	男	女	総数
ボランティア	49.0	44.6	6.4 (202)
地区子ども会	41.3	54.7	4 (225)

図4-11 「奉仕学習型×年齢・男女」

期間	年齢	年齢													
		20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-74			
ボランティア T	202 (99.0)	8 (24.0)	4 (12.0)	21 (63.0)	15 (45.0)	31 (93.0)	20 (60.0)	18 (54.0)	18 (54.0)	12 (36.0)	20 (60.0)	24 (72.0)	24 (72.0)		
M	99 (24.2)	3 (11.7)	3 (12.0)	14 (52.0)	10 (37.0)	16 (59.0)	12 (45.0)	11 (42.0)	13 (49.0)	4 (15.0)	4 (15.0)	4 (15.0)	8 (32.0)		
F	90 (17.4)	5 (5.3)	1 (1.1)	7 (7.6)	5 (5.5)	15 (16.7)	7 (7.7)	7 (7.7)	4 (4.4)	7 (7.7)	15 (16.7)	16 (17.8)	16 (17.8)		
地区子ども会 T	225 (23.3)	1 (0.4)	10 (4.4)	42 (18.7)	37 (16.4)	52 (23.1)	29 (12.9)	11 (4.9)	13 (5.8)	12 (5.3)	4 (1.8)	4 (1.8)	4 (1.8)		
M	93 (22.7)	0 (0.0)	4 (4.7)	14 (16.2)	14 (16.2)	25 (29.1)	13 (15.1)	4 (4.7)	9 (10.5)	6 (7.0)	2 (2.3)	2 (2.3)	2 (2.3)		
F	123 (23.8)	1 (0.8)	6 (4.9)	28 (22.6)	23 (18.7)	27 (21.9)	16 (12.8)	7 (5.6)	4 (3.3)	6 (4.9)	2 (1.6)	2 (1.6)	2 (1.6)		

(10) 地域活動型

図4-16 「地域活動型の各学習行動とその参加率」(類型参加率 64.9%)

	はい	いいえ	NA	行動者数
職場や自分の属している団体の研修会・講演会に参加しましたか。	42.4	52.0	5.6	(416人)
研修や視察のための旅行をしましたか。	41.1	53.6	5.3	(403人)
講演会に行きましたか。	50.3	44.4	5.3	(493人)
地区の公民館に行きましたか。	59.4	35.3	5.3	(583人)
地区や町の祭りや体育祭、文化祭などに行きましたか。	はい 78.6	いいえ 17.9	3.5	(772人)
地区の清掃活動や防災活動に参加しましたか。	75.3	21.2	3.5	(739人)
青年会、婦人会、老人会などの地域の団体の会合に出ましたか。	38.9	56.7	4.4	(382人)
地区や隣組の会合に出ましたか。	64.5	32.1	3.4	(633人)

この類型は8種の類型中、最も多くの人が行動。また男性の参加率がやや高いものの性差はそれほど顕著ではなく年齢差で20才代の青年層の参加率が低いことが特徴的であった。

図4-16の各行動別の参加率では、「地区・祭り」(78.6%)と「地区・清掃」(75.3%)が最も高く四人に三人は参加。次いで「地区・隣組」(64.5%)が約三人に二人、「地区公民館」(54.0%)「講演会」(50.3%)が二人に一人以上と続く。しかし、「職場・団体研修」が42.4%、「研修旅行」が41.1%、「地域団体会合」が38.9%と仕事や地域の行事であっても対象が限定された団体の場合の参加率は相対的に低い。仕事の場合は対象が限定されるのは当然だが、地域団体は青年、婦人、老人など世代別ではあるが、本来全町民を対象とする組織である。その参加率が低いのは同じ地域活動といっても質的に相違があることを示すものであろう。(図4-16)

男女比では、やはり仕事関係故か「職場・団体研修」と「研修旅行」は行動別構成比ではほぼ同率であるものの性別構成比では男性の参加率が高い。また参加者の多い「地区・隣組」もその会合の性格上か性別構成比では男性の参加率がやや高い。逆に「地域団体会合」では行動別・性別ともに女性の参加率が高い。それ以外は行動別では女性がやや高いものの性別ではほとんど差はない。(図4-17, 4-8)

年齢別では、実数が少ないが「職場・団体研修」の20才代前半の女性といずれの年齢も参加率の高い「地区・祭り」を除き、各行動別にみてもやはり20才代の青年層の参加率は相対的に低い。青年の地域活動への参加率が低いことは一般によくいわれることである。その意味で土肥町も例外ではない。ただ一部にせよ参加率の高い項目があり、また「地域団体会合」では男性の20才代がいずれも平均値を上回り、「地区清掃」では男女平均して五割前後の参加率であること等を青年の地域に対する積極性の芽として読み取ることも可能ではないか。

他方、一部例外はあるものの、男女を問わずいずれの行動も40才代を中心に30才代～50才代の参加率が高い。青年層とは逆に、中・高齢者の地域活動への参加の高さが指摘されることは

図4-17 「地域活動型×男女」

	男 女		総 数
	男	女	
職 場 研 修	47.1	49.8	3.1 (416)
研 修 視 察	46.3	49.0	4.7 (403)
講 演 会	41.7	54.0	4.3 (493)
地 区 公 民 館	44.1	52.5	3.4 (583)
地 区 祭 り	40.9	53.9	5.2 (772)
清 掃	41.7	52.9	5.4 (739)
地 区 団 体 会 合	36.6	58.4	5.0 (382)
地 区 会 合	45.0	50.0	5.0 (633)

表4-8 「地域活動型×年齢・男女」

質問	年齢	年齢													
		20 -24	25 -29	30 -34	35 -39	40 -44	45 -49	50 -54	55 -59	60 -64	65 -69	70 -74			
職 場 研 修 T	M	416 (42.4)	15 (45.3)	18 (38.8)	49 (49.0)	44 (51.2)	48 (47.7)	57 (54.3)	54 (47.4)	47 (43.9)	26 (31.0)	22 (31.0)	24 (38.1)		
	F	196 (47.9)	6 (33.3)	10 (40.0)	28 (39.9)	25 (34.3)	25 (32.2)	22 (33.0)	23 (31.9)	23 (31.4)	11 (30.8)	8 (31.0)	13 (31.0)		
	F	207 (40.0)	9 (30.0)	8 (21.1)	21 (39.5)	19 (47.5)	23 (44.2)	34 (51.5)	30 (46.2)	24 (42.9)	14 (32.8)	14 (31.8)	10 (31.3)		
研 修 視 察 T	M	404 (41.1)	9 (32.2)	17 (36.0)	35 (43.5)	38 (44.2)	55 (44.7)	49 (44.7)	52 (45.1)	49 (44.4)	30 (34.3)	24 (33.8)	31 (49.2)		
	F	187 (46.7)	4 (38.0)	9 (38.0)	23 (43.5)	25 (34.3)	30 (44.7)	17 (21.1)	23 (23.0)	12 (12.7)	7 (7.9)	14 (16.0)			
	F	198 (38.9)	5 (33.3)	8 (31.1)	12 (32.6)	13 (32.3)	25 (42.1)	31 (47.1)	29 (44.5)	26 (46.4)	17 (38.5)	16 (33.8)	16 (49.2)		
講 演 会 T	M	494 (50.8)	10 (30.3)	20 (31.7)	54 (54.0)	52 (60.3)	69 (65.7)	66 (62.9)	54 (47.4)	52 (45.1)	33 (39.2)	34 (47.9)	31 (49.2)		
	F	206 (30.4)	3 (22.2)	7 (38.0)	27 (39.4)	26 (33.0)	33 (39.2)	24 (28.9)	21 (25.0)	26 (31.0)	15 (18.0)	11 (14.0)	12 (18.0)		
	F	267 (51.0)	7 (46.7)	13 (31.0)	27 (39.4)	26 (33.0)	36 (42.1)	41 (50.0)	32 (39.2)	26 (31.0)	18 (22.0)	22 (30.0)	18 (28.0)		
地 区 公 民 館 T	M	583 (59.4)	13 (39.4)	27 (42.9)	71 (54.0)	54 (60.3)	67 (65.0)	65 (62.9)	73 (64.0)	67 (58.0)	48 (57.1)	45 (62.0)	37 (58.7)		
	F	257 (38.1)	8 (46.7)	11 (44.0)	36 (39.4)	31 (37.0)	32 (38.1)	25 (30.0)	33 (39.2)	30 (35.0)	17 (18.0)	18 (25.0)	15 (22.0)		
	F	306 (39.3)	5 (27.3)	16 (40.1)	35 (39.4)	23 (27.0)	35 (42.1)	39 (47.1)	38 (45.0)	36 (42.9)	30 (35.0)	26 (35.0)	21 (31.0)		
地 区 祭 り T	M	772 (78.3)	25 (77.3)	43 (78.3)	88 (79.3)	83 (84.9)	88 (85.0)	89 (84.2)	86 (71.7)	80 (64.1)	62 (74.3)	54 (71.1)	48 (71.1)		
	F	316 (40.5)	14 (72.3)	15 (32.0)	42 (39.4)	39 (46.8)	40 (48.1)	32 (38.1)	33 (39.2)	35 (41.0)	26 (31.0)	18 (23.0)	21 (28.0)		
	F	416 (40.5)	11 (42.4)	30 (78.3)	46 (38.0)	34 (38.0)	48 (55.0)	56 (64.0)	50 (58.0)	44 (51.0)	35 (41.0)	35 (45.0)	24 (31.0)		
清 掃 T	M	739 (75.3)	14 (44.4)	33 (38.0)	83 (39.2)	65 (39.4)	85 (39.4)	86 (39.2)	88 (39.2)	86 (39.2)	65 (39.2)	52 (39.2)	45 (39.2)		
	F	308 (75.3)	8 (44.4)	17 (38.0)	41 (39.2)	31 (39.4)	39 (39.2)	30 (39.2)	37 (39.2)	39 (39.2)	27 (39.2)	18 (39.2)	18 (39.2)		
	F	391 (75.0)	6 (46.0)	16 (41.1)	42 (39.2)	34 (35.0)	46 (39.2)	55 (39.2)	48 (39.2)	46 (39.2)	37 (39.2)	33 (39.2)	25 (39.2)		
団 体 T	M	382 (38.9)	9 (37.3)	16 (34.4)	41 (41.0)	40 (41.5)	43 (41.0)	45 (42.9)	35 (39.2)	42 (39.2)	26 (31.0)	29 (40.8)	29 (41.9)		
	F	140 (34.5)	7 (38.9)	11 (44.0)	24 (31.0)	19 (31.9)	15 (22.7)	9 (11.9)	9 (11.9)	6 (7.9)	7 (9.2)	7 (9.2)	13 (32.0)		
	F	223 (45.1)	2 (13.3)	5 (13.2)	17 (32.1)	21 (32.5)	28 (33.0)	35 (33.0)	26 (24.0)	24 (22.0)	20 (18.0)	22 (18.0)	23 (18.0)		
合 計 T	M	633 (64.5)	4 (12.1)	15 (31.0)	51 (51.0)	57 (57.9)	79 (77.0)	77 (73.0)	90 (76.9)	85 (71.7)	62 (73.0)	49 (66.0)	54 (81.0)		
	F	285 (38.7)	6 (22.5)	28 (34.0)	33 (37.1)	39 (45.5)	31 (36.0)	40 (48.0)	41 (48.0)	27 (31.0)	20 (23.0)	13 (17.0)	13 (17.0)		
	F	316 (31.1)	0 (0.0)	9 (37.7)	23 (43.0)	24 (40.0)	40 (60.0)	45 (68.0)	48 (73.0)	48 (76.9)	34 (41.0)	28 (36.0)	20 (28.0)		

多い。しかし、それにしても40才代を中心とする中年層の地域活動への参加率の高さは奉仕学習型の場合とともに土肥町の特長ではないか。その理由としてまず一般的には、過疎化が進行する地域や面積・人口規模の小さな地域における人間関係の凝集性の高さが考えられ。しかし本調査対象地域である土肥町の場合は職場と地域が密接に関連する観光業が町の主要産業であることがより大きな要因として上げられるのではない。

なお38.2%と全体として最も参加率の低い「地域団体会合」で、男女いずれも70才代が最も高く男性が52.0%、女性71.9%。老人会等の高齢者を対象とする活動が活発であろうか。

以上、男性、あるいは青年の参加率が高い資格学習型、スポーツ型、奉仕学習型、そして全体として参加率の高い地域活動型の特性についてそれぞれの類型を構成する学習行動の側面から考察してきた。その結果資格学習型の場合と合わせて、男性のそれも中年層の行動への契機は仕事との関わりを抜きにしては語れないようである。いいかえれば社会教育の対象として従来無視、もしくは対処できない層として捉えられた男性中年層の問題は、職業あるいは職場を学習の対象や場として考慮することにおいて解き口が見出されるのではない。

また青年層の場合、資格学習型やスポーツ型にみられる特性から、彼らの学習行動への契機は、伝統的な静的趣味や教養主義的知識教授の場ではなく、動的で遊びの要素を中心に結びついたグループ・サークル等に代表される仲間集団に見出される。

このように捉える時、地域社会において生涯教育的観点から教育（学習）機会の制度化を進めるに当たり重要な事は、従来の行政主体の成人を対象とする社会教育の延長線上ではなく、各種事業体や自発的な小集団も含めたより広範な地域住民全体を対象とした主体とするシステムの多元的組織化であろう。生涯教育が個人の生涯における学習の継続化と同時に従来学習を必要としなかった多種多様な層における学習行為の重要性を意味するとするならば、対象の拡大に伴い学習の内容、方法はいかに及ばず学習の場においても、そしてその教育の担い手自体の多様性が追求されねばならないと考えるからである。

5. おわりに変えて

本小論での考察は、土肥町で実施した社会教育調査の学習行動に関する質問の結果をもとに析出した学習行動類型の性別、年齢別クロスに止まるものである。その意味で土肥町という地域性、また分析の部分性から以上述べたことは全て仮説の段階に止まろう。今後さらに教育意識、社会意識、郷土意識あるいは各種教育施設の利用状況等、同調査で得た他のデータ⁽⁴⁾との総合的検討により、より精度の高い仮説を提起して行きたい。また御殿場調査との比較⁽⁵⁾あるいはその後実施した浜松市での同様の調査⁽⁶⁾の分析との比較等により学習行動類型による分析の有効性、一般性の検証を試み、その結果をもとに静岡県内各地での調査を実施することから、本研究「(Ⅰ)」で提起した問題の追求を進める計画⁽⁷⁾であることを記して終わりに変えたい。

注

- 1) 角替弘志・馬居政幸「成人の学習行動の分析に関する基礎的研究（Ⅰ）—御殿場市におけ生涯教育調査を中心として」『静岡大学教育学部研究報告（教科教育篇）』第15号 1983 167～180ページ
 - 2) ①角替弘志・馬居政幸共同発表「地域社会における学習機会と学習意思（Ⅰ）」（日本生涯教育学会第4回大会 1983 金沢大学）
②角替弘志・馬居政幸・滝多鶴代共同発表「地域社会における学習機会と学習意思（Ⅱ）」（日本生涯教育学会第5回大会 1984 国立教育会館）
 - 3) 御殿場調査では「健康・一人運動」は「体育グループ」とともに「スポーツ学習型」を構成している。「御殿場市第2次生涯教育基礎調査報告書」参照（御殿場市教育委員会編著『御殿場市の生涯教育』1986 所収）
 - 4) 土肥調査の調査票は次のような項目からなる。
 - ① 30種の学習行動の参加の有無に関して
 - ② 56項目の学習意識に関して
 - ③ 6分野168項目の学習項目の学習要求・欲求度に関して
 - ④ 日常生活における知識・情報源に関して
 - ⑤ 町の社会教育施設の利用状況に関して
 - ⑥ 土肥町の現状や未来についての町民の評価に関して
 - 5) 御殿場調査と土肥調査で析出された学習行動類型化のための3種の軸の性格についての比較は「地域社会における学習機会と学習意思（Ⅱ）」で発表。注2）参照
 - 6) 浜松市青年婦人会館10周年記念事業の一貫として実施された会館と角替・馬居・滝との共同調査。その概要は次のとおりである。
 - ① 調査期間 昭和60年2月～3月
 - ② 調査対象 18～40才の男性530人および18～65才の女性 1011人
 - ③ 調査方法 郵送にて送付、回収
 なお、調査結果の概要については「青年、婦人の学習と生活 その意識と行動」として浜松市青年婦人会館編著『10周年記念誌』に収録されている。
 - 7) 現在進行中のものとしては、①浜岡町教育委員会による「浜岡町教育課題調査」、②静岡県教育委員会による「県民学習調査」がある。
- ※・本調査のコンピューターによる統計処理は、本学教官の望月雄蔵先生に全面的な協力を願いました。
- ・本報告の資料作成については富士市立富士中学の滝多鶴代教諭と本学部大学院宮島明利の協力を得ました。